

常に流動的な“host-parasite relationship”に 対処していくための社会貢献



やまざき しゅうどう
山崎 修道

国立感染症研究所 名誉所員

略歴 **山崎 修道** (やまざき しゅうどう)

1961年 千葉大学医学部医学科 卒業
 1966年 千葉大学大学院修了, 同医学部文部教官
 1967年 米国バージニア大学医学部 客員研究員
 1970年 米国National Institute of Health 客員研究員
 1972年 国立予防衛生研究所ウイルス中央検査部 室長
 1975年 米国ニューヨーク大学医学部 客員助教授
 1981年 国立予防衛生研究所ウイルス中央検査部 部長
 1991年 同副所長兼エイズ研究センター長
 1993~1999年 同所長(1997年に国立感染症研究所に改称)
 2001~2007年 三菱化学ビーシーエル(現:三菱化学メディエンス) 顧問
 2004年~ NPO 法人エイズワクチン開発協会設立, 同理事長
 2009年~ 財団法人日本ポリオ研究所 理事長
 現在に至る

感染症分野の危機対応の時代に

メディエンス FORUM は 2003 年に MBC FORUM として始まり, 私は第 1 回から第 5 回までの代表世話人を務めました。当時の時代背景として注目すべきことは, 1960~70 年代にかけてアフリカに突如発生した恐怖のウイルス性出血熱に続いて, 1980 年代に世界を震撼させた牛海綿状脳症(BSE)の発生, 1981年にアメリカで発見された後たちまち世界中で確認されたエイズ, 1997年に香港で発見された高病原性鳥インフルエンザウイルスのトリからヒトへの直接感染, 1999年にニューヨーク市に突如出現したウエストナイルウイルス熱, そして 2002 年に中国で新たに発見された重症急性呼吸器症候群(SARS)等々, 地球上のどこかで次々と発生したいわゆる新興・再興感染症のグローバリゼーションのリスクから, いかにして国民を守るかが 20 世紀末から 21 世紀にかけての社会の重要な関心事でした。このような時代背景のさなかにあった 2003 年, 当時の社長からの依頼で MBC FORUM の企画をお手伝いすることとなりました。

幅広い分野に関係する情報を発信する

そこで第 1 回から第 5 回までは“感染症 FORUM”として時の話題の感染症を中心とした内容を取りあげました。地球環境の変化による新興・再興感染症が台頭してきた時期にあって, 民間検査会社の“社会貢献”としてどのような内容がふさわしいか議論を重ねた結果です。内容の企画を立てるにあたっては世話人を誰にお願いするかが非常に重要で, 感染症分野から 14 名の方を候補とし, 最終的に 13 名の方にお引き受けいただくことができました。テーマの決定について事務局の方々からは, この FORUM は必ずしも営利に結びつく必要はないという言葉が繰り返

10年を振り返って

講演 1

講演 2

講演 3

講演を
絞って

語句解説

FORUM 開催
事務局後記

最新
トピックス

連載
ダイエット

検査と私

医の提言

徒然なる
ままた。

し出てきました。つまり、必ずしも検査技術に関係した情報だけではなく、医療、健康、福祉といった広い分野に関係する情報を社会に発信することが民間検査会社の責務である、というのです。その意義があったことは、FORUMが10年間盛況であったという点で証明されていると考えます。

本誌 Animus が FORUM に果たした役割も大きいと思います。1996年に創刊され現在まで16年間季刊誌として発刊が続いているわけですが、本誌があったからこそ、FORUMを10年もの長きにわたって継続し得たと思っています。本誌の特集を初号から追っていくと非常に面白く、初めは糖尿病や高血圧、がんといった内容が多いのですが、2001年ごろからは感染症分野の特集が多くなっています。このことはFORUMのテーマである感染症に対する世の中の関心の高まりを表しているのではないのでしょうか。

社会貢献の精神は変わらず

さて、最近のFORUMですが、内容が専門化し、技術的な言葉が多くなってきている印象を受けます。技術が進んだために自然と専門化しているのか、社会の要求によるものなのか、どちらかなのでしょうか。注意したいのは、科学技術が進歩し専門化するほど、一般の人の理解から離れて、溝ができてしまうということです。学術的な学会でこそ専門的な内容が求められますが、そこに「社会に広く知ってもらおう」点が求められることは少ないのではないのでしょうか。私は、FORUMに求められている役割はやはり、いかに社会に分かりやすく伝えるかという点ではないかと考えます。例えば、薬剤耐性菌や高病原性鳥インフルエンザに関しても、世の中に正確でない情報や科学的根拠のない情報が伝えられることがあります。そういった誤りを正していくこと、一般の人に分かりやすく正確な情報を伝えることもFORUMの役割の1つ

であると考えます。それは専門家に話すよりも難しいことで、しかもそれができる先生を見つけるのは容易なことではありません。

民間検査会社の主要な役割は以前は病気の検査に限られていたように思いますが、現在ではワクチンや新薬の臨床試験なども手掛けるようになってきました。ジェンナーの時代に重要だったことは、最も悲惨な天然痘がなくなることであり、ワクチンのもたらす大きな恩恵のためには副反応はある程度止むを得ないと考えられていました。しかし現在では安全性に対する社会の要求が強くなっており、何百万人に1人の副反応があっても問題となる時代です。これは人間が進歩していることの証であって悪いことではありません。この安全性を保証するために行うのが臨床試験であり、大きな民間検査会社だからこそできることなのです。ですから、民間検査会社の貢献する分野は今後ますます広がっていくと考えます。

目に見えない微生物と人間との関わり、つまり“host-parasite relationship”は科学技術の進歩と同時に人間がもたらした地球環境の変化により常に流動的です。それに対処していくためには、専門家の知識だけでなく、一般の人の理解も必要です。一般の人に理解していただくための啓発活動は専門家集団である学会ではなかなかできないことであり、民間検査会社がスポンサーとなって行う社会貢献活動だからこそできるものと思います。この“社会貢献”という第1回からのFORUMの精神は、歴代の社長によっても受け継がれています。これは非常に素晴らしいことであり、FORUMは三菱化学メディエンスが誇るべき事業だと思えます。

最後に、これまで10回のFORUMの開催を成功に導いていただいた、世話人の先生方や学術部を中心とした事務局などの、記録には残っていない多くの方々の尽力と苦勞に感謝を申し上げます。

10年を振り返って

講演 1

講演 2

講演 3

講演を終えて

語句解説

FORUM開催事務局後記

最新トピックス

連載ダイエット

検査と私

医の提言

徒然なるままに。